

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第 1 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 6 年 4 月 2 3 日 (火) 1 3 時 3 0 分 ~ 1 5 時 0 0 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員	1 0 名	市職員 5 名 事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> (1 名 : 別添名簿のとおり) ・ なし		
報告・検討 の内容	1 自己紹介		
	2 部会長、副部会長の選出		
	3 前回の振り返り		
	4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	5 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 自己紹介 ・今年度第 1 回目の部会開催のため、自己紹介していただく。		
	2 部会長、副部会長の選出 ・部会長に興柵さん(愛歩)。副部会長は部会長の指名により、福岡さん(ハーモニー)を選出する。		

3 前回の振り返り

- ・講演会に向けて、当事者の方やタイトル、内容について話し合いを行う。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○講演会について

日時：令和6年6月1日（土）10：00～正午（9：30 開場）

会場：日進市民会館 小ホール

演題：（仮）にしんココロの支援ガイドブック完成記念講演会
～みんなでつくる地域共生社会～

対象：日進市内の障害福祉・高齢福祉サービス事業所職員、
医療関係者、民生委員等

定員：100名

〈質問項目について〉

- ・ゆったり工房さんにインタビューした時に質問項目もあがっていた。
- ・チラシを早めにみなさんにご案内し、同時に質問項目を募り、集まらなかった時に備えて部会でまとめておくのはどうか。
- ・ゆったり工房当事者さんには、事前に聞かれる質問を共有し、事前に平澤先生と打合せをする時間が必要。質問項目を募るのであれば、締め切りがもう少し早いと良い。
→質問項目については保留とする。

〈グループワークについて〉

- ・全てのグループに発表してもらおうと時間がかかるため、いくつかピックアップして発表してもらおうと良い。
- ・初回で日進市の目標を語るのはハードルが高いのではないか。
- ・にも包括自体が浸透していないと感じるため、まずは事業所に伝え、考えるきっかけにしたい。まずは冊子ができたことを支援者自体が知り、支援者同士が繋がれると良い。
- ・どこでつまづいたのかも知りたいが、サービスや地域の方の支えなどがあって、こうなれました、という話に繋がると良い。
- ・グループワークでは率直にどう思ったか、感想（15分）でいいのではないか。その後、身の回りの話やできそうなこと、登壇者にもう一度聞きたいことを話してもらうのも良い。
- ・地域で暮らすにあたって、当事者がどういうところを知っていてほしいか、どういう人材がいると安心して地域で暮らしていくことができるか、どんな取り組み、活動があるか行ってみようと思えるのかを最初の対談で聞けると良い。また、高齢者を支える仕組みが市内には50か所程あるが、精神障害の方が対象

になると、すばるさん 1 か所しかない。住民の方々が当事者のことをよく知らないから何をしたらいいのか分からないのか、ニーズがないのか、整理ができると良いと思う。ただ、今回のグループワークでは難しいため、先々のステップとして考えられると良い。

- ・民生委員さんにも冊子の存在や支援先を知ってもらうことで、スムーズに支援先に繋がれるのではないか。
- ・グループワークの時間配分が多いため、講演会よりもグループワークがメインに感じてしまう。先生の話が 60 分、利用者さんと参加者のコミュニケーションの場にした方がいいのではないか。
- ・会場から質問を受けてゆったり工房の当事者さんが答えることは難しい。事前に打ち合わせで聞く内容を示し、当事者の思いとして出してもらうことは可能と思われる。
- ・にも包括の説明後、当事者の方にどんな生活をしていて、何に困っていて、どんなことがあると良いのかを話していただき、専門職の方に知っていただいたうえで、どんなグループワークをすると繋がりがもっと強くなり、みんなにとって暮らしやすい日進市を創れるのか、みんなで考えてもらったら良いのではないか。専門職が繋がるのが、にも包括のステップだと思う。
- ・当事者の方の意見に対し、冊子を使ってこうやって導けるよね、という話ができると冊子の記念の講演会になると思う。使い方の普及になるのではないか。グループワークで冊子を使った方が、みんなが自信をもって冊子を配れるのではないか。
- ・グループワークで参加者の自分の立場を示し、横の繋がりはできているのか、それぞれの立場でみんなで情報交換ができると繋がる土台ができるため、普及啓発の目的を達成できるのではないか。

【当日のスケジュール（予定）】

① ご挨拶と冊子の説明（10分）

② 平澤先生講演（30分）

③ 先生とゆったり工房利用者さんで対談（40分）

最初に簡単な自己紹介を行い、冊子の中の言葉を用い、「外に出るのが怖い時、どうしてましたか？」等で会談形式で一人ずつお話をします。

④ グループワーク（30分）

自己紹介、自分の立ち位置やどんな場面で冊子を自分の立場として使えそうか、何ができそうかを含めた感想の共有を行う。

⑤ まとめ（質疑応答）、ご挨拶（10分）

- ※具体的な案については、平澤先生よりメールにてご提案くださる。
- ※その他、意見があれば事務局にメールをいただく。
- ※ゆったり工房さんの人数は4人で確定ではないため、時間配分や話す内容によって考えていきたい。
- ※グループワークは、参加人数により形態を検討。机を使用せず、5人程度で（輪になり）行う。

5 その他

○今年度のケアマネ部会の検討内容について

- ・冊子を活用してイベントなどで市民の方にも知っていただきたい。当事者向けに何かした方がよいなど、意見がほしい。
- ・地域生活支援拠点についても話し合いたい。緊急通報システムが日進市にほしいなど意見が出るとよい。
- ・にっしん障害者みらいプランについて、検討案にしていけるとよい。

○地域生活支援拠点について

- ・介護福祉課岩城さんより、日進市居室確保事業の説明をしていただく。
- ・地域福祉課野村さんより、地域生活支援拠点の説明をしていただく。

○その他

- ・講演会事前準備：5月31日（金）午後
時間については後日連絡する。
- ・ゆったり工房あじさいコンサートのご案内
→にも包括の冊子の増刷りが間に合えば、当日に配布する。

以上

今回確認事項	①	部会長、副部会長の選出
	②	前回の振り返り
	③	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	④	今年度のケアマネ部会の検討内容について
	⑤	地域生活支援拠点について

次回検討課題	① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	冊子の中身の内容を共有し、具体的にまとめる
次回開催日時	令和6年5月28日（火） 午後1時30分
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第1回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年4月23日（火）13時30分～15時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行	平澤 恵美（明治学院大学）
② 興梠 精視	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍	
⑩ 福田 有輝	

（市職員）

① 岩城 佳寿	② 大橋 志乃
③ 藤田 綾子	④ 櫻木 順子（欠）
⑤ 小倉 懸自	⑥ 野村 圭一

(事務局)

① 宇佐美 香津美	② 日岡 由季枝
③ 野々山 勝己	④ 西岡 きくの
⑤ 森田 敏湖	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第 2 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 6 年 5 月 2 8 日 (火) 1 3 時 3 0 分 ~ 1 5 時 0 0 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員	1 0 名	市職員 6 名
	事務局	4 名	
※出席者名簿は、別添のとおり			
傍聴者	有り (1 名 : 別添名簿のとおり) ・ なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・ 講演会に向けて、グループワークの内容をつめる。 ・ 今年度のケアマネ部会の検討内容について話し合う。		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○講演会について 事務局より説明。次第、タイムスケジュール、会場配置図、名簿について確認をする。 ・ 現在 10 グループだが、人数が増えれば 11 グループに変更予定。 ・ ファシリテーターがワークの様子を観察し、どんな話が出たかを部会で報告する。 ・ A 3 用紙はファシリテーターが回収。		
	3 その他 ○地域生活支援拠点について		

地域福祉課野村さんより、にしん障害者みらいプラン、地域生活支援拠点のご説明をしていただき、ケアマネジメント部会が関係する取り組みを確認する。

◆資料「にしん障害者みらいプラン」

〈p.60〉 第4次日進市障害者基本計画

3.施策体系、施策分野1～9の内、以下が該当。

施策分野1 - ①意思決定支援

施策分野2 - ①居住の場の確保（→地域生活支援拠点）

施策分野5 - ①保健・医療の充実等（→にも包括）

施策分野6 - ①相談支援体制の充実

④障福祉サービスの質の向上、障害福祉を支える人材の育成・確保（→講演会・研修）

〈p.86〉 第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画。

2、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築。

〈p.87〉 3.地域生活支援の充実、図表5-3、図表5-4の目標値を確認する。

〈p.91-92〉 6.相談支援体制の充実・強化等の、目標設定の考え方の確認をする。

⇒上記を参考に、今後のケアマネジメント部会の取り組みを検討する。どのような項目を取り上げるか、誰を対象にするか（事業所なのか、家族に働きかけるのか）。課題から優先順位を決め、取り組めると良い。

◆資料「日進市における地域生活支援拠点等の推進について」、「日進市における地域生活支援拠点等（面的整備）のイメージ（R6.4.1）」

地域生活支援拠点の目的（スライド3）

- ① 緊急時の迅速・確実な相談支援の実施・短期入所等の活用。
- ② 体験の機会の提供を通じて、GH、一人暮らし等への生活の場の移行をしやすくする支援を提供する体制の整備。

上記目標を達成するためには、事業所が役割分担をし、負担軽減ができる、面的整備型が必要。→日進市では平成29年度末に整備完了。（スライド4）

面的整備において必要な機能（スライド7）

- ① 相談、②緊急時の受け入れ・対応
→緊急に至る可能性のある方のリストアップ、ある程度の情報を事前にまとめられると良い。

② 体験の機会・場

→宿泊のみでなく、日中の生活の体験ができる場が必要。

⇒将来的には、日中活動系サービス事業所にも居室確保事業に参加していただき、日中活動の体験の受け入れをしていただきたい。令和6年度から報酬改定により、地域生活支援拠点加算があるため、条件はあるが、事業所に参加していただけると良い。

○にも包括冊子の活用について

- ・7月のわいわいフェスティバルは、今年度の出店ができない。健康福祉フェスティバルでは、地域福祉課は今年もブースを出す予定。障害事業所さんは物販で出店をしている。新たに出店していくのではなく、既に出している事業所さんと協力して冊子を置かせてもらう方法もある。
- ・健康福祉フェスティバルの配置を決めているのが、社協の地域福祉係。社協事業紹介のところであれば、冊子を置くことができる。障害福祉事業所の一角でも可能。今年度から福祉功労賞の表彰式がフェスティバルと別日になったため、当日武道場が一日空いている。企画があれば、今なら場をおさえることが可能。ただ、日曜のため、どれだけ人員をさけるか、という課題はある。
- ・冊子は買い物に行く人などの目にとまるところに置けると良い。
- ・まずは精神の病院に置き、学生には入学や卒業のタイミングで全員に配布できると良い。家族という単位でみると、学校に配ることが有効で、ひきこもりの可能性がある人の目にとまると思う。学校ではタブレットがあるため、アプリで開けるように作る等、できることはあると思う。
- ・コードモンアプリで入学、進級、休み明けのタイミングで定期的に配信し、冊子をみていただく。また、定期的に広報につきしんに出すなど対策は考えられる。
- ・予算も関係するため、学生全員に配布が難しいのであれば、安い紙で白黒でも良いのではないか。
- ・学生用に配布するにあたり、色味を近づけた方が、障害のある方への配慮などの説明もできると思う。

〈あじさいコンサート〉

- ・あじさいコンサートが6/29(土)にある。配布は難しいが、冊子を設置することはできる。説明をする人員を作れるかは分からない。とりあえず在庫100冊を設置し、1部見本として置けると良い。
- まずは、あじさいコンサートで冊子を置き、はけた数を数え

	<p>る。</p> <p>〈福祉実践教室〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内では福祉実践教室を行っている。じゃんぐるじむ竹内さんが小学校 4 年生から行っている。また、4 年生の総合の時間が福祉を学ぶ時間になっている。このタイミングで配布するのも良いと思う。中学校では 1 年生か 2 年生。実践教室で配布することで、福祉の学びにも活かせるのではないか。 ・福祉実践教室は 1 年間の予定が 4 月の段階で決まっている。今年の日進中と東中の全体講義だけ。教室での授業がない。学校が行うかどうかを選択している。また、発達障害の理解というテーマで話すため、冊子の話をするには学校の許可が必要になる。来年以降であれば、検討可能かもしれない。 ・ペラペラの紙だと鞆から出てこなかったり、配布物が多いと埋もれてしまい、見ない可能性がある。ただ渡すだけよりは、福祉実践教室などで説明があった方が伝わると思う。 <p>○ 7 月の部会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/23 自立支援協議会のため、7/30 にケアマネ部会を行う。 ・ 事前打合せは調整後、事務局よりご連絡を差し上げる。 <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルピーネットについて、部会員さんが変わったため、再度説明。登録にご協力いただくと良い。 ・ 金城学院大学のファッション工房のチラシのご案内あり。 <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>今回確認事項</p>	<p>① 前回の振り返り</p> <p>② 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>③ にも包括冊子の活用について</p> <p>④ 地域生活支援拠点について</p>
<p>次回検討課題</p>	<p>① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>② 地域生活支援拠点について</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和 6 年 6 月 2 5 日（火） 午後 1 時 3 0 分</p>
<p>次回会場</p>	<p>障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第2回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年5月28日（火）13時30分～15時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行	佐々木 慈（実習生）
② 興梠 精視	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍	
⑩ 福田 有輝	

（市職員）

① 岩城 佳寿	② 大橋 志乃
③ 藤田 綾子	④ 櫻木 順子
⑤ 小倉 懸自	⑥ 野村 圭一

(事務局)

① 宇佐美 香津美	② 日岡 由季枝 (欠)
③ 野々山 勝己	④ 西岡 きくの
⑤ 森田 敏湖	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第3回	ケアマネジメント部会	
日時	令和6年6月25日(火) 13時30分～15時00分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 9名	市職員 5名	事務局 4名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (1名：別添名簿のとおり) ・ なし		
報告・検討の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 地域生活支援拠点		
	4 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>1 前回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会に向けて話をつめる。 ・ 地域生活支援拠点について。 ・ にも包括の冊子の活用について。 <p>2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>○講演会アンケート集計 参加者 62 人、アンケート配布数 62 部、回答数 59 部</p> <p>Q①：あなたの所属先 A：日中活動系サービス 27 人、訪問系サービス 12 人の順で多かった。</p> <p>Q②：土曜日午前中の設定について A：参加しやすい…51 人</p>		

Q③：にも包括について

A：参考になった…54人

理由：分かりやすい説明で、サポート体制の理解ができた。

Q④：対談について

A：参考になった…57人

理由：当事者の思いが分かりやすく、理解をしてくれる人を増やすことで冊子の活用になると思った。

Q⑤：意見交換会について

A：参考になった…55人

理由：色々な職種の方からの色々な意見を聞いて、視野が広がり参考になった。

Q⑥：どのようなテーマの講演会・勉強会に参加したいか

A：強度行動障害、メンタルヘルス、当事者の話

○グループワーク内容について

各ファシリテーターより、報告をしていただく。

テーマ①「こころの病を抱えた人が安心して地域で生活していくためにできること。」

- ・基礎知識は人によって差があることが分かった。周りが理解をし、居心地のいい空間づくりや必要なタイミングで介入することが大切で、小学校から学べる仕組みがあると良い。

テーマ②「冊子をどのように活用していくか」

- ・SNSやメディア、市長にご協力いただく。集合住宅に掲示したり、地域の回覧板を活用する。精神科以外の科や企業、コンビニ、ドラッグストアに置いてもらう。市内イベントや定期的な講演会などで周知できると良い。QRコードを付けたらどうか。

○にも包括冊子の活用について

- ・あじさいコンサートでは、13:00～16:30 ホワイエにてブースを作る予定。「ご自由にどうぞ」と100部置き、見本で中身が分かるようにする予定だが、説明をする人員を割くことはできない。
- ・市民向けの講演会をするなら平澤先生に依頼。職員向けと同じ内容でも、違って良いと思う。知ってもらうことが大切。
- ・冊子を各事業所に置けると良い。
- ・公共施設に配布できていない。冊子ができたというプレスリリースができるが良いが、問い合わせ後に配布できるよう、増刷が必要。切欠きなしでの増刷を検討中。事業所、支援者向けに配布するのであれば、切欠きはいらぬのではないか。
- ・企業で健康経営をしているところに周知。
- ・コドモンアプリにて、小中学校の保護者にはPDF添付で配信済

	<p>み。市の HP にも掲載済み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校のヘルピータイムの時間にて、「多様性を認めよう」や「自己コントロールの方法」を伝えている。 <p>3 地域生活支援拠点について 地域福祉課より、資料の説明をしていただく。</p> <p>◆資料「地域生活支援拠点等が有する機能の充実のための意見交換用情報共有シート」(A3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回抽出した課題から数年経ったため、現状把握ができると良い。 ・資料右端の「令和 6 年度時点評価 (できていること・必要な取組)」の部分を、部会員さんに埋めていただけると良い。 ・できている部分について、次回共有できると良い。 <p>4 その他</p> <p>○7月の部会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23日(火)が自立支援協議会の本会議のため、ケアマネジメント部会を30日(火)に変更する。 <p style="text-align: right;">以上</p>
今回確認事項	<p>① 前回の振り返り</p> <p>② 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>③ 地域生活支援拠点について</p> <p>④ その他</p>
次回検討課題	<p>① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>② 地域生活支援拠点について</p>
次回開催日時	令和 6 年 7 月 3 0 日 (火) 午後 1 時 3 0 分
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第3回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年6月25日（火）13時30分～15時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行	澤井 麻桜（実習生）
② 興梠 精視	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子 （欠）	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍	
⑩ 福田 有輝	

（市職員）

① 岩城 佳寿	② 大橋 志乃
③ 藤田 綾子	④ 櫻木 順子
⑤ 小倉 懸自	

(事務局)

① 宇佐美 香津美	② 日岡 由季枝 (欠)
③ 野々山 勝己	④ 西岡 きくの
⑤ 森田 敏湖	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第 4 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 6 年 7 月 3 0 日（火） 1 3 時 3 0 分 ～ 1 5 時 3 0 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 7 名	市職員 3 名	事務局 6 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍 聴 者	有り（ 名：別添名簿のとおり） ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 各部会の報告について		
	3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム冊子の周知方法について		
	4 地域生活支援拠点について		
	5 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>1 前回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会の振り返り。 ・ にも包括の冊子の活用について。 ・ 地域生活支援拠点について。 <p>2 各部会の報告について</p> <p>各部会の取り組みを事務局より報告。</p> <p>〈子ども部会〉</p> <p>① 発達に課題がある方の週末の過ごし方について協議中。愛知淑徳大学と連携し、市のレクリエーション文化活動等支援事業助成金を利用して 2 月にスポーツセンターで共催でイベントを行</p>		

う予定。

- ② 市内の特別支援学級に在籍されている児童の不登校について、児童を取り巻く関係機関の役割を整理し、関係図マップと支援機関の一覧を作成中。また、市内の小・中学校に配置されている特別支援コーディネーターの研修に、今年度も子ども部会が協力して行う予定。教育と福祉の連携について事務局から説明し、スクールソーシャルワーカー、子ども部会に参加している事業所、市内の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスの事業所に声をかけ、模擬ケース会議としてどのように連携していくかという協議を進めていく予定。

〈就労部会〉

- ① 6/12に障害がある児童の保護者向け学校卒業後の進路を考えるための障害福祉サービス説明会を実施した。小学1年生～高校3年生まで幅広い親御さんが参加し、関係者含め152名参加。午前は三好特別支援学校の先生より事例を交えた講演を行い、午後は具体的に話や相談ができるよう、28事業所がブースを設けた。

〈権利擁護部会〉

- ① 避難所開設訓練を市の防災交通課と打合せをしている。小学校2校で行うが、避難所にてブース（ワークショップ）設置の希望が出ているものの、人員を割くことが難しい状況。事前講義では要配慮者の避難所生活サポートブックを例年よりも詳しく説明し、訓練当日は当事者と事業所が訓練を兼ねて一緒に避難所開設訓練へ行く予定。
- ② 成年後見制度の勉強会について、今年は意思決定支援について4法人が研修予定。
- ③ 虐待防止勉強会については、強度行動障害について環境調整だけでは対応できないケースが増えており、学校ではマンツーマンだが事業所ではそれができないため、幼少期からの支援を含め、強度行動障害の理解や支援の方法、支援への援助助言についてお話が聞けるような内容で講師を選定している。
- ④ 差別解消法の勉強会については、講義ではなく、障害のある方と触れ合う機会を設けることで障害者の理解ができるよう、市民まつり健康福祉フェスティバルにおいてボッチャのイベントを行う予定。

3 にも包括冊子の周知方法について

あじさいコンサートでの冊子の受け取り具合について、本日磯村さんが休みのため、事務局が報告する。

「100部準備し、41部が残ったため、59部配布することができた。周知、説明できる人がいなかったため、PDFを印刷して中身が見え

るように設置したが、こんなところにも相談していいんだと感ぜられる方がいたり、支援者が興味をもって手に取られたため、支援者がまずは持つて行くことが大事と感ぜた。」

〈市民まつりでの周知方法〉

- ① ブースを出す事業所さんの各ブースに冊子を置く。
- ② 専用のブースを設ける。
 - ・ブースを設けるのであれば、長机2本、パネル2本を用意し、B紙にシールを貼ってもらう方法もある。呼び込みの人材を確保できれば可能。
 - ・競技場の午前は講演が入っており午後なら空いてるが、競技場に入ると呼び込みが大変。ぐいぐい呼び込める人が必要になる。
 - ・1階はブースの確保が可能。まだ配置は決まていない。2階であれば、競技場前は使われていないため、ほぼ確定されると思う。人が通る入口近くの階段か2階階段付近か競技場近くが効率が良い。※場を確保するために具体的な案が必要。

〈メンタルチェック〉

- ・こころの健康チェックで立ち寄ってもらい、印刷した結果とともに冊子を配布する。
- ・タブレット、プリンター、Wi-Fiが必要。市のタブレットについては、機器によってプリンターに繋がらないものもあり、当日使えるかは確認が必要。
- ・タブレットでなくても、手書きの点数で何点当てはまたら冊子渡すという方法であれば簡易。
- ・結果をその場で印刷しなくても、答えをいくつか用意し、何点の人にはこれ、と渡す方法もある。
- ・公の機関が出すブースのため、適当なメンタルチェックを提供するわけにはいかない。保健所に聞いた方が良い。

〈誘導方法、シール貼り、スタンプラリーについて〉

- ・2階でポツチャをするため、行列ができるのであれば並んでいる方に声かけをしてケアマネ部会に誘導も可能。
- ・地域福祉課での身体の可塑性チェックから心のチェックへ誘導しても良い。
- ・プレスリリース後に市民まつりがある。冊子について知ってましたか？と問いかけ、知ってたらシールを貼ってもらう方法なら負担が少ない。シールを貼るなら1か所にしないと、同じ人が貼ってもいけない。
- ・全体のスタンプラリーを今年もやるのか？
→実行委員事務局ではスタンプラリーをやりたいが、負担に感ぜ

ているところもあるため、希望を聞いている段階。希望ブースのみが行うかもしれない。

〈当日の人材について〉 11月17日（日）9：00～15：00

- ・午前、午後のみと交代制でブースに各3人ずつとしても、6人必要。センター職員出たとしても、部会員さんに協力いただきたい。
 - ・3時間は長い。1時間から交代できないか？
→行ける人が参加できると良い。ずっと人がいないといけない訳でもない。人の出入りが盛んな午前10：00～12：00の2時間を頑張るでも良いと思う。
- 本日欠席者が多い。当日参加可能かを事務局より部会員さんにメールかヘルピーネットで伺い、集計する。

〈市民まつり以外での周知方法について〉

- ・全戸配布について。広報紙は全戸配布で4万部刷っているため、冊子の全戸配布は4万部が目安となる。広報の挟み込みはシルバーさんに依頼しているため、お金を払っており、前年度に依頼が必要。冊子の全戸配布をするには予算的に次年度も難しい。
- ・コドモンでは周知はできるが、アンケートを載せるのであれば所管課に確認が必要。
- ・事業所、福祉会館、市役所、大学学生相談室など、協力先をみつけ、置ける場所を探す。市民協働課にデータを渡すと、市と協定を結んでいる大学にデータの発信ができ、大学によっては学生に電子配信が可能。手間もかからずに周知ができ、今年可能と思う。
- ・ヘルピーネットで支援者向けに再度配信し、見たら「いいね」の反応をしていただいたり、毎月「にも包括冊子を活用したか、エピソードあったらください。」を募れると良い。

〈これまでの流れの整理と市の見解〉

- ・「にもとは」から始まり、3月に冊子ができ、講演会に来た方とあじさいコンサートにて実際に配ることができた。最初300部で刷っており、皆さんの手に渡っていない。そこで増刷の話が出ている。切欠きなしで1000部は可能。現状在庫がないため、市の窓口や図書館、市民会館にも置いていない。通年おけるようにしたい。医療機関は冊子を置いてるだけと思うのでフォローが必要。
- ・学校にはコドモンで配信したが、学校担当課に提案したところ、小中学校はタブレットが渡っているため、タブレットの電子図書館としてやってほしいと言われたため、子どもへの増刷・配布はなくなった。
- ・できるところから取り組むとすれば、プレスリリースだと思って

いる。コドモンは反応がないのがひとつの反応。市内コドモンは学校以外からの配信数が多く、タイトルではねて見ないことがある。コドモンはそのような立ち位置。反応みることも大事なため、毎月冊子に関して話せたらいいのではないか。

4 地域生活支援拠点について

○情報共有シート

できていることがH30年度から変わっているが、新しい部会員さんには難しいと思うため、それぞれの困り事や必要なことを話せたら課題として出せると思う。出た課題を地域生活支援拠点としてケアマネ部会で考えるのか、他部会に検討課題として依頼するのか振り分ける必要あり。

〈課題〉

- ・緊急で入院が必要になった際、ご家族が付き添えず事業所が付き添ったことがある。
- ・業務時間外に電話がくることがある。親子関係がうまくいかず、子をおいて母が家を飛び出し、相談連絡がきたことあった。子と離れる口実でショートステイを使いたいとのことだったが、子は中学1年生で普通級だった。
- ・子がみんな発達障害をもち、母が拒食症になり入院が必要になった。日進市内の親戚が子の面倒をみて入院することになった。なんとかできないか、仕組みないかと思った現状があった。東京では24時間立ち上がっている。
- ・千葉県浦安市では、なんでも相談を受ける中核センターあった。委託料をもらって運営している。
- ・相談支援センターは24時間対応しているが、担当職員でなければチャットで共有している。24時間受け入れる体制はできているが、どこまで動いているかは不透明。日進が重層的支援体制整備としてどこまで動いているのか実感はあまりないため、どこまで寄せていけるかと思う。
- ・日中一時支援、移動支援、あまりうまく動いていない。レスパイトはあまり制度として動いていると思えない。
- ・障害をもつ子の親は仕事時間を変えろと学校から言われる。家族のニーズにどこまで事業所が対応できるかは課題。本会議で放デイの日数を増やす話を聞くが、子にとって家族との時間は大切。親のニーズと子のニーズは異なり課題と感じる。
- ・事業所が限られると調整ができなかったりする。事業所がどこまで対応できるのか。コロナにより勢いが弱ったように感じる。
- ・病院で心臓の手術をしたら治ると言われていたが、持病があるからできないと言われた。持病は知的障害だった。知的障害でも対応してくれる病院を探していかないといけない。

- ・重度訪問介護の付き添いは慣れた人でないと意味がない。コミュニケーションが難しい。事業所（人）が動けるとよい。新たな要綱作成が必要。
- ・がんの治療で、子を祖母が見られる時間まで事業所として預かっていたことがある。何かあるといいと思った。
→居室確保では1回3泊、日中は4回まで利用可能。
- ・不登校の子は沢山いる。小学校1年生からが何人もいて、すでに4年生になっている子もいる。これでいいのかと思うし深く考える場が必要。長久手市の学校と直接やりとりをする中で、事業所に通いプログラムをこなすことで出席日数に充てられるよう、プログラムを毎回つくって報告することになった。担任の先生が来てくれて本人は嬉しかったのか、4月から学校に通えるようになった。事業所、本人、家庭だけでは難しかったが、学校と連携できたことで変わった。日進も学校と連携して具体的に動ける体制になっていくと良い。
- ・子ども部会では各事業所、相談支援センター、病院や学校でどう連携していくかという図まではできた。スクールソーシャルワーカーも多く配置されたため、変わっていかうとしているように感じる。
→本日の欠席者に、1人1件メールで困り事を考えてもらえると良い。

5 その他

○日中サービス支援型共同生活援助の評価について

介護福祉課長原さんより資料（A4、3枚）の説明をしていただく。

日進市で日中支援型グループホーム立ち上げの希望が出た場合、自立支援協議会もしくは部会で評価をする必要があり、年1回実績を評価することが法律で決まっている。評価シートは市町村単位で作るため、介護福祉課で案を作り、それについてケアマネ部会で意見を聞いてから評価シートを作成したいと思っている。日中支援型グループホームの事業所さんが直接来た際に、評価シートを用いて評価をすることをケアマネ部会でお願いしたい。

→次回、一番最初に検討できると良い。

○みんなの勉強会について

8/20（火）みんなの勉強会について、事務局より連絡。

○その他

- ・ケアマネ部会の終了時間を明確にできると良い。15：00なのか15：30なのか。部会員さんによって認識が違う可能性がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にメールで話し合う内容を伝え、考えてきてもらえると良い。 ・ケアマネ部会 1 週間前を目途に、市が資料作成したものを事業所にメール予定。 <p style="text-align: right;">以上</p>
今回確認事項	① 前回の振り返り
	② 各部会の報告について
	③ にも包括冊子の周知方法について
	④ 地域生活支援拠点について
	⑤ その他
次回検討課題	① 日中サービス支援型共同生活援助の評価について
	② にも包括冊子の周知方法について
	③ 地域生活支援拠点について
次回開催日時	令和 6 年 8 月 2 7 日 (火) 午後 1 時 3 0 分
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第4回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年7月30日（火）13時30分～15時30分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行 (欠)	
② 興梠 精視	
③ 磯村 有美 (欠)	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍 (欠)	
⑩ 福田 有輝	

(市職員)

① 長原 詠子	② 岩城 佳寿
③ 大橋 志乃	

(事務局)

① 藤田 綾子 (欠)	② 櫻木 順子
-------------	---------

③ 小倉 懸自	④ 宇佐美 香津美
⑤ 日岡 由季枝	⑥ 野々山 勝己 (欠)
⑦ 西岡 きくの	⑧ 森田 敏湖

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第5回	ケアマネジメント部会	
日時	令和6年8月27日（火）13時30分～15時00分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8名	市職員 2名	事務局 8名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り（1名：別添名簿のとおり） ・ なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 各部会の報告について（就労部会）		
	3 日中サービス支援型共同生活援助の評価について		
	4 にも包括冊子の周知について		
	5 地域生活支援拠点について		
	6 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・ 各部会の報告について ・ にも包括冊子の周知方法について ・ 地域生活支援拠点について ・ その他		
	2 各部会の報告について ○就労部会（事務局）		

福祉的就労説明会について振り返りを行い、今後目指す状態像を具現化するための確認を行った。①計量的な数字を目標にするのか、②知識向上のためのバスツアーをするのか、③福祉計画にコミットするのか、④保護者に向けたものにするのか等、市内には色々なターゲット層があるため、部会委員より「日進市としては何がしたいのか知りたい。」「障害福祉サービスの多様化・増加により、保護者が自宅で子どもを育てるための知識が弱くなっている。子ども自身の力を発揮できるよう、家庭でも育てていくための親御さんの知識の向上が必要なのではないか。」という意見が出た。家族関係が希薄になりつつあると思うが、就労部会としてできることを考え、子ども部会と共に検討していけると良い。10月部会でも継続して検討していく。

3 日中サービス支援型共同生活援助の評価について

○評価シート（介護福祉課）

◆資料

1) 日中サービス支援型共同生活援助（グループホーム）に係る評価等について

2) 日中サービス支援型指定共同生活援助に係る事業計画書（実施報告書）（案）

「4.趣旨」～「12.その他」の中で余分なものや組み合わせた方がよいもの等、意見や質問があれば、9/3（火）までに障害者相談支援センターにメールを送っていただきたい。また、今後介護福祉課と事業所が直接メールのやりとりをすることについて問題があれば、センターに伝えていただきたい。資料について出た意見を取りまとめたものを次回報告する。10月の自立支援協議会では、ケアマネ部会で評価を行うことを報告する予定。

Q. 自立支援協議会に通した後でも評価シートを更新していくことは可能か？

A. 可能。他市町も評価を実施していく中で修正をしている。

Q. 愛知県内の他市町が既に利用している評価シートを取り入れられないか？

A. 既に修正し、他市町のものも取り入れている。

Q. 評価シートにより、できていないという評価になった場合、グループホームは活動できなくなるのか？

A. 権限は愛知県にある。事業所は受けた評価を県に出さないといけないため、県が指導を行うことはあると思う。市としてはできていないグループホームの評価シートを自立支援協議会に出すことはできる。評価シートに拘束力はないため、きちんと修正されるかどうかは事業所次第だが、抑止力にはなる。

Q. 利用者のためにも、改善にもっていけるものができるとうい。
A. 一つの方法として、年1回現場に見に行くことが一番効果があると思うが、メンバーのスケジュールでできるか分からない。

4 にも包括冊子の周知について

○ブース設置（事務局）

市民祭りでの冊子周知方法について、人材の確保ができたため、専用ブースを設ける案を進める。簡単なアンケートに対し、該当する回答にシールを貼っていただき、こころの健康チェックシートにも包括冊子を渡す。症状が重い方への対応困難の可能性があるため、ブースではこころの健康チェックシートはせず、ご自宅で実施していただき、必要な時は冊子を参考にしていただく。

当日は6事業所の部会員さんが参加予定。

（愛歩、ハーモニー、ゆったり工房、じゃんぐるじむ、ランズビー、ジョブサポあさだ）

冊子の周知については随時部会で相談させていただく。

（例1）あなたはこころの健康に自信がありますか？

1. 自信がある 2. あまりない 3. ない

（例2）メンタルヘルスという言葉を知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

5 地域生活支援拠点について

○今後の取り組み（地域福祉課）

日進市内では色々な事業所がサービスを行っており、面的整備として地域生活を支援する基盤ができている。自立支援協議会の専門部会の中で、ケアマネ部会は基本的に相談支援の場であるため、ケアマネ部会で個別の事例から課題を探し、6月配布のシートをもとに地域生活支援拠点の取り組みに繋げていけるといい。自立支援協議会の最後の本会が1月にあるため、1月にはワークシートに入力されたものを協議会員に配布し、報告ができるといいと思っている。11月まで議論の猶予があるため、今後も地域生活支援拠点を充実させ、障害者が暮らしていけるように環境を整えていきたい。

Q. 事例検討ではなく、市内の制度では救うことができない困り事をケアマネ部会で事例紹介してもらい、まずは情報共有という考えで合っているか？

A. そうですね。まずは意見を聞いて整理できればと思っている。地域生活支援拠点については平成30年度に事例検討をしているため、今回は各事業所から一例ずつ出していただく方法はとらず、事例の紹介にとどめる。出た意見によっては確認や工夫の共

有等やりとりがあっても良い。

Q. ワークシートの完成はいったん外していいのか？

A. 最終的には皆さんのご意見をシートに落とし込まないと整理がしづらいと思う。国が地域生活支援拠点の必要な機能として5つ出している。皆さんの話が特にどの部分の課題なのかは整理しないといけない。シートに沿って「相談」について課題はありますか？という投げかけでは話し合いが難しいのではという意見もあったため、とりあえず意見を聞きたい。できないことに目がいきがちと思うが、「できていること」の欄もある。支援が足りない中で工夫することで乗り越えていること等あれば、事業所同士参考になると思う。

Q. 表の見方と、ブロック会議はどこが回答したものなのか？

A. 表左側のブロック会議は当時の市が取りまとめ、捉えた現状を報告している。真ん中がケアマネ部会での事例検討の結果になっている。そのため、真ん中とブロック会議でズレや温度差がある。現在の状況を事業所視点で把握したい。

○事例確認

各事業所から困り事を共有していただく。

〈小山さん〉

「体験の場」における経験として、18年間入所で働いていたことがある。グループホームを利用するために短期入所で体験してもらいながら、何ができてできないのかを判断して他事業所に繋いでいた。既存の事業所にヘルプを求めた方が協力を得やすく、繋がりやすいと思った。

Q. 体験は一時的な利用しかできないと思っていたが、そうではないのか？

A. 名古屋市は区と相談することで短期入所で一年みて、生活リズムをつくってからグループホームに移行していた。

〈神谷さん〉

相談員としての困り事は、A型で就労していたが諸事情で行けなくなり、現在引きこもりになっている方がいる。A型の案内をしたいが市内ではそもそもA型事業所が少ない。ヘルパー事業所としては資格取得に困り事がある。ずいぶん前に同行援護の資格取得について市内でやっていたが、今は名古屋まで受けに行かないといけない。ヘルパーは主婦が多いため、市外だと土日に出なければならず、二の足を踏んでしまう。同行援護を相談員に相談しても、「なかなか見つからない。」と言われると聞いており、事業所としても人が

少なくなかなか対応ができない。資格がとれる支援がもう少しあればと思う。

A. 市内で1回行った時は、受講者を市内の方限定にし、講師が市の職員であったため講師代がかからずに安く実施することができた経緯がある。

〈磯村さん〉

事業所が増えてきた印象はあるが、移動の足がない。精神の方は定期的な通院が必要であり、医師との相性もあるため、気軽に近場の病院へと変えることができない。移動のいい案があればと思う。また、家族支援としては「家族が相談したい。」「専門機関だけでなく、家族同士で話せるところはないのか。」と聞かれる。ご案内できる場所があればいいなと思う。

〈竹内さん〉

子が発達障害をもち、母が県をまたいで入院するため日進市内の叔母が面倒をみることになったが、相手の市とやりとりをしたところ、母は障害があるが福祉サービスに繋がっておらず、田舎の方で放デイが無くなってしまったことから利用計画がないことが分かった。市町村から利用計画の相談がきたが、夜で緊急だったため、センターに繋がず直接やりとりをした。緊急で必要な対応はどんな対応が良いのか正解が分からない。共働きが多く、悩んでいる方は大抵21時以降に緊急連絡がくることが多い。

Q. ほかの事業所さんではどうしているのか？

A. 訪問看護24時間のところに繋ぎ、いつでも相談できるようにしている。

〈滝川さん〉

グループホーム内の利用者の支援の仕方で困っている方が一人いる。自分のことを棚に上げ、他の利用者に対し「もっとお金の使い方を考えなさい。」等思うままに発言し、相手を傷つけ不穏にさせている。他の利用者は本人から逃れたいため徐々に食事の時間をずらしている。本人は女性だが怒ると勢いがあり、全ての職員が手こずっている。話を聞くようにしているが、支援をどうしたらいいか、対応についてアドバイスがほしいと思った。

A. 小山さん：利用者さん同士で困ったことを話す会を設け、同じ仲間ですと解決できるといい。スタッフだと上下関係になるが、仲間に言われると解決できることもある。今日のデザートは何にする？といった楽しい小さいことから話す会をして、たまに嫌な話もするとお互いに言いやすい環境が整っていくと思う。言わないのはお互

いにストレスになる。

事務局：本人は元々介護職のため、相手のことが気になってしまう。

障害が混ざっているグループホームよりは、精神のシェアハウスに入れると良いのではと思う。打たれ弱いため、他利用者から沢山言ってもらえるのも手かもしれない。

滝川さん：大量服薬をするかもしれないが、本人は死なないことを分かっているため大量服薬をする。

小山さん：打たれ弱いならそこに支援の手を差し伸べることで、信頼関係を築いていくことができるかもしれない。

〈福岡さん〉

支援学校卒業後、生活介護やB型事業所を利用することになった場合、放課後等デイサービスを利用していた時間よりも早く帰ってくるため、「働き方を変えなさい」と学校から言われることから、悩まれる親御さんが毎年いる。生活介護後に日中一時支援を利用したくても、実際に利用したい時期に空きがあるかは分からない。今後、日中一時支援事業所が増えていくのかも分からない。生活介護の延長加算がとれるようになり、延長を検討するが職員の募集をかけても集まらない。シングルの母が帰るまで2時間自宅で留守番をしている方もいるが、何かあった時にすぐに対応できない。ヘルパーを見守りに入れられたら良いが、知らない人が自宅に入ることを嫌がる家庭もあり、事業所としては延長できれば親御さんも安心して働くことができると思うが、職員がいないためとても悩んでいる。日々の生活でも、強度行動障害の男性利用者で身体が大きいと女性では対応しきれない。男性職員にきてほしいが、なかなかいない。困っている利用者さんを受けたいが、受けられる自信や余裕がない。やってあげたいけどやれないもどかしさがある。資源や職員の確保ができればもっと対応できるのと思う。

A. 竹内さん：生活介護後に日中一時支援を利用される方は多く、障害特性が強い方が多い。家族が安心して過ごせる仕組みが必要だが、市内の日中一時支援の単価報酬が低い。ある程度の知識をもった職員でないといけないため、仕組みを真剣に考えていけると良い。

福田さん：高齢もしくはお子さんの居場所づくりはある程度ボランティアベースで支える仕組みが充実しているが、障害の方に対してはインフォーマルサービスの住民主体が弱いと感じる。事例に出た、移動、日中活動後からご家族が帰るまでの時間について何かできないかと思う。落ち着いた方であれば場所さえあれば良いが、不穏になりやすい方にはきちんとした専門性がある人が必要だと思

	<p>うため、すぐの対応の難しさを感じる。移動の足については、何かを少し組み合わせることでカバーができるのではないかと思う。</p> <p>櫻木さん：皆さんの意見を定期的に聞くことは大切と思った。今日の意見からスタートにし、次回以降、掘り下げていけたらと思う。他意見があれば随時話せると良い。</p> <p>6 その他 検討事項なし。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
今回確認事項	<p>① 前回の振り返り</p> <p>② 各部会の報告について（就労部会）</p> <p>③ 日中サービス支援型共同生活援助の評価について</p> <p>④ にも包括冊子の周知について</p> <p>⑤ 地域生活支援拠点について</p> <p>⑥ その他</p>
次回検討課題	<p>① 日中サービス支援型共同生活援助の評価について</p> <p>② にも包括冊子の周知について</p> <p>③ 地域生活支援拠点について</p>
次回開催日時	令和6年9月24日（火） 午後1時30分
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第5回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年8月27日（火）13時30分～15時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行 (欠)	中鉢 (実習生)
② 興梠 精視 (欠)	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍	
⑩ 福田 有輝	

(市職員)

① 長原 詠子	② 岩城 佳寿
③ 大橋 志乃 (欠)	

(事務局)

① 藤田 綾子	② 櫻木 順子
---------	---------

③ 小倉 懸自	④ 宇佐美 香津美
⑤ 日岡 由季枝	⑥ 野々山 勝己
⑦ 西岡 きくの	⑧ 森田 敏湖

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第 6 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 6 年 9 月 2 4 日（火） 1 3 時 3 0 分 ～ 1 5 時 1 0 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 9 名	市職員 2 名	事務局 7 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り（ 名：別添名簿のとおり） ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 各部会の報告について（権利擁護部会）		
	3 日中サービス支援型共同生活援助の評価について		
	4 にも包括冊子の周知について		
	5 地域生活支援拠点について		
	6 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部会の報告について ・ 日中サービス支援型共同生活援助の評価について ・ にも包括冊子の周知方法について ・ 地域生活支援拠点について 		

2 各部会の報告について（事務局）

◆別紙資料 権利擁護部会（9/18 実施）

- ・避難所開設運営訓練 11/10（日）予定
※総選挙と重複の可能性があるので日程未定
- ・虐待防止勉強会
4 法人主体の勉強会 12/21（土）予定
→意思決定支援に重きを置いた虐待防止について
部会主体の勉強会 2月頃を予定
→行動障害の対応スキルを上げて、虐待につながら
ないようにしていく内容で検討中
- ・障害者差別解消法
ボッチャ体験会 11/17（日）予定
健康福祉フェスティバルにて開催

3 日中サービス支援型共同生活援助の評価について（介護福祉課）

○評価シートについて

◆別紙資料

- ①『日中サービス支援型指定共同生活援助に係る事業計画書（実施報告書）』 ※以下【計画書①】と表記
- ②『評価シート案にかかる意見等』 ※以下【意見等②】と表記

【意見等②-No. 2】

- ・評価をして指導が入っても直らなかった場合について
⇒日進市内では行政処分ができないため、処分等の判断は愛知県の所管になる。ケアマネ部会では年に1回、現地調査なども実施し評価していきたい。

【意見等②-No. 3】

- ・常時の支援体制について = 【計画書①-5】
⇒「提供する日中サービスの内容」を追記。食事提供と食費を分けて表記。

【意見等②-No. 4】

- ・利用者の権利擁護等への配慮について = 【計画書①-9】
⇒「意思決定支援の推進」を追記。権利侵害発生時のマニュアル等は虐待防止対応規定等を想定。

【意見等②-No. 5】

- ・定期評価シートについて
⇒定期評価は事前評価シートと同じ様式を使用。事前評価で項目がこれだけあるところは少ない。

【計画書①-2】

- ・人員配置について

⇒現場で実践を踏んでからのため、サービス管理者の「実践研修受講日」を追記。

(グループホームの人員配置については県の様式を確認してから整理。)

【計画書①-6】

- ・地域に開かれた運営について

⇒「利用者に対する指定計画相談支援の提供は別法人が行っているか」を追記。

【計画書①-10】

- ・利用者の健康管理について

⇒「連携しているクリニック・病院等」を追記。

以上、追記・修正した計画書を10月自立支援協議会（第2回）に、提出予定。

4 にも包括冊子の周知について（事務局）

○市民まつりでのブース設置

前回までの案は、模造紙に質問を貼り、参加者に呼びかけ回答をシールで貼ってもらう内容。

（案1）あなたはこころの健康に自信がありますか？

1. 自信がある 2. あまりない 3. ない

（案2）メンタルヘルスという言葉を知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

- ・冊子は質問に回答した人だけではなく来場者全員に配布すればよいのではないか（回答者は福祉に興味ある人だけでは）。

⇒来場者数と冊子数に乖離があるため全体配布は難しい。

- ・7月の部会ではどれくらいの人に周知されているかをモニタリングする目的だったが、そこから離れているのではないか。

⇒今年度はまだ周知にシフトチェンジしたい。

- ・冊子のチラシ版を作成、QRコードを掲載しアクセス数をカウントしてはどうか。

⇒ノベルティ等がないとアクセスしてもらうのは難しい。

今年度はライトな質問をして、来場者を呼び止める。

（質問案）疲れていませんか？

1. はい 2. いいえ

- ・大人と子どもでシールを変えて貼ってもらい、シールを貼ってもらった人に冊子を持って帰ってもらう。チェックシート等もその際に説明する。

- ・ニッシーキーホルダー 先着100名 市が用意予定。

※冊子P.3 掲載の「フリースペースすばる」について

事前の掲載確認がとれていなかったことから、今回増刷分1,000部は削除した内容で配布（配布済分は問題なし）。今後も事業所・医療機関等、更新の際は要確認。

5 地域生活支援拠点について（地域福祉課）

○今後の取り組み

◆別紙資料

『地域生活支援拠点等が有する機能の充実のための意見交換用情報共有シート』

【相談について】

- ・夜に事業所へ相談が入った場合の連携対応
⇒現在障害者相談支援センターの電話のみ転送されている。子ども発達支援センターの電話は転送されないので周知が必要。職員内の連絡連携はとれている。

【地域の体制づくり一家族支援について】

- ・事業所ごとの家族会について

◇ゆったり工房

事業所内の家族会はあるが、相談で繋がっている方の悩みを吐き出せる場所があるといい。現在日進市ではそのような場所の提供はできていない。家族が落ち着くと利用者も落ち着く。

◇じゃんぐるじむ

時代が変わって保護者同士で集まる機会も少なくなっていると感じる。現在は公式ラインで流れてきた悩みを役員3人で対応。年齢の低い時からの繋がりは特に大切。特に発達・精神障害のお子さんの保護者の集まる機会が少ない。あったとしてもイベントで終わり、そこから繋がることがない。ただ保護者が求めていることは事実。

◇ポレポレ

昨年立ち上げたばかりだが、役員など保護者の負担が大きい。すくすく園では保護者同士で話し合う機会があるが、参加しない人は参加しないので、保護者によるところも大きい。

◇すくすく園

すくすく園以外の児童発達支援事業所に通っている方の繋がりはわからない。また働く保護者の繋がりは難しいと感じる。

◇あいあいの家

	<p>ダウン症を抱える保護者の繋がりが日進にある（以外の地域もあり）。場所貸し等をして、通所されている方との繋がりもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の家族のための尾東家族会が以前あったが、今はとりまとめの代表者もいなくなり解散してしまった。 ・日進市としてそのような場所の提供があるとよい。 <p>【生活介護が終わった後の過ごし方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長となると全員を見なくてはいけない→職員の確保が課題。 ・千葉県では日中一時支援と入れ替えた事例がある。 ・今年のケアマネ部会ではいろいろな事業所が参加していることから、障害者支援のための家族支援が一番身近である。 ・来月も家族支援について議題に挙げたい（事業所内支援でも個別支援でも家族をテーマに意見を伺いたい）。 <p>6 その他 検討事項なし。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>												
今回確認事項	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="394 1081 459 1167">①</td> <td data-bbox="459 1081 1442 1167">前回の振り返り</td> </tr> <tr> <td data-bbox="394 1167 459 1254">②</td> <td data-bbox="459 1167 1442 1254">各部会の報告について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="394 1254 459 1341">③</td> <td data-bbox="459 1254 1442 1341">日中サービス支援型共同生活援助の評価について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="394 1341 459 1429">④</td> <td data-bbox="459 1341 1442 1429">にも包括冊子の周知について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="394 1429 459 1516">⑤</td> <td data-bbox="459 1429 1442 1516">地域生活支援拠点について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="394 1516 459 1603">⑥</td> <td data-bbox="459 1516 1442 1603">その他</td> </tr> </table>	①	前回の振り返り	②	各部会の報告について	③	日中サービス支援型共同生活援助の評価について	④	にも包括冊子の周知について	⑤	地域生活支援拠点について	⑥	その他
①	前回の振り返り												
②	各部会の報告について												
③	日中サービス支援型共同生活援助の評価について												
④	にも包括冊子の周知について												
⑤	地域生活支援拠点について												
⑥	その他												
次回検討課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="394 1603 459 1691">①</td> <td data-bbox="459 1603 1442 1691">日中サービス支援型共同生活援助の評価について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="394 1691 459 1778">②</td> <td data-bbox="459 1691 1442 1778">にも包括冊子の周知について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="394 1778 459 1872">③</td> <td data-bbox="459 1778 1442 1872">地域生活支援拠点について</td> </tr> </table>	①	日中サービス支援型共同生活援助の評価について	②	にも包括冊子の周知について	③	地域生活支援拠点について						
①	日中サービス支援型共同生活援助の評価について												
②	にも包括冊子の周知について												
③	地域生活支援拠点について												
次回開催日時	令和6年10月22日（火） 午後1時30分												
次回会場	障害者福祉センター 大会議室												

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第6回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年9月24日（火）13時30分～15時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行 (欠)	
② 興梠 精視	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍	
⑩ 福田 有輝	

(市職員)

① 長原 詠子	② 岩城 佳寿
③ 大橋 志乃 (欠)	

(事務局)

① 藤田 綾子	② 櫻木 順子
---------	---------

③ 小倉 懸自	④ 宇佐美 香津美
⑤ 日岡 由季枝	⑥ 野々山 勝己
⑦ 西岡 きくの	⑧ 森田 敏湖 (欠)

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第7回	ケアマネジメント部会	
日時	令和6年10月22日(火)13時30分～15時10分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 10名	市職員 1名	事務局 7名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り(名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 各部会の報告について		
	3 にも包括冊子の周知について		
	4 地域生活支援拠点について		
	5 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・各部会の報告について ・日中サービス支援型共同生活援助の評価について ・にも包括冊子の周知方法について ・地域生活支援拠点について 2 各部会の報告について(事務局) 別紙のとおり。 (部会長より補足) 権利擁護部会で避難所開設訓練を行い、利用者・保護者も参加予定。		

Q. 就労選択支援事業は国の事業か？

A. はい。就労アセスメントを行っていたが、こちらに切り替わる。厚労省が出す事業所の指定基準として、3年で3人送り出していること、とあるが、市内では就労移行支援事業所がパッソ、日進ワークキャンパスの2つしかなく、日進ワークキャンパスは2年目、パッソは今年オープンしており、市内で3年経つ事業所がない。

Q. 三好特別支援学校以外の進路選択は？

A. 発達障害やひきこもりの子が通う、星槎国際名古屋（通信制）ニュートン高等専修学校がある。

3 にも包括冊子の周知について

○11/17（日）市民祭りでのブース設置、対応時間、備品、タイトル

〈アンケート内容〉

- ・「疲れていませんか？」という質問は唐突すぎるため、「あなたはこころの健康に自信がありますか？」の方が良いという意見があった。小さい子には「イライラしたり悲しくなっちゃって眠れないことはある？次の日まで引きずっちゃうことはある？」と聞き、シールを貼る場所（はい、いいえ）を一緒に考えてあげると良い。
- ・にも包括の周知を目的とするなら「にも包括を知っていますか？」とし、景品と冊子を渡す方がシンプルでインパクトをつけられると思う。子どもは「メンタルヘルスという言葉を知っていますか？」という質問の方が答えやすい。
- ・「にも包括」を専門の人でも知らない人はいる。詳しい説明を求められても困ると思うため、「にも包括を知っていますか？」より「冊子を知っていますか？」の方が次に繋がりやすいと思う。
- ・コードモンでは冊子啓発が済んでいるため、「ガイドブックを知っていますか？」と聞き、知らなかったら中身を見せ、子どもには「こころの健康に関するものだよ。」と伝える方法もある。

→「にっしんココロの支援ガイドブックを知っていますか？」に決定する。

〈冊子配布時の説明〉

冊子を渡す際に、にも包括についてさっと説明を加えると分かりやすいと思う。

→「誰もが安心して暮らせる地域づくりです。」

（ガイドブック内（p. 6）を引用）

〈パネルに貼るタイトル〉

多くの人が通っていく中で、目にとまり、何をしているのか分かるものが多い。細かいと認識されないため、短いフレーズがいい。

タイトル：にしんココロの支援ガイドブックを知っていますか？質問に答えて景品をもらおう。

〈配布物〉

冊子：300部、すばるが抜けているもの。

景品：市政30周年記念缶バッジ（200個）とポケットティッシュ（市の在庫分）。

各担当課に配布グッズが渡されるが、30周年記念の限定品であるため来年度以降は配りづらい。なるべく配布をしたい。ポケットティッシュは自殺対策として、こころの相談窓口のQRコードを入れたものの在庫分を配布する。

〈パネル・ボード〉

パネルに貼ったB紙にシールで回答を貼ってもらう予定だったが、手持ちのボードにするなら、元々シールを貼る予定だったパネルのスペースに冊子の中身を展示しても良い。

→タイトルの印刷や首から下げる形式で手持ちのボードは障害者相談支援センターが作成する。発泡スチロールでA1（A3が4枚分）のサイズ。

〈駐車場〉

スポーツセンターの立体駐車場は8:45頃に開門されるため、午前担当者は駐められると思うが、午後に駐められるかは確証がない。中央福祉センターの駐車場はおそらく利用できない。候補地として、スポーツセンター、市民会館（当日は文化祭を予定）、おりど病院、愛歩（図書館等がダメであれば確保可能）。

〈シフト〉

当日のシフトは事務局より以下を予定。

午前（9:00～12:00）

ハーモニー（福岡さん）、ジョブサポあさだ（小山さん）、
あんじゅの森（神谷さん）

午後（12:00～15:00）

愛歩（興梶さん）、ゆったり工房（磯村さん）、
ランズビー梅森台（滝川さん）

前日にブースが設置されるため、当日は10分前集合が良い。

パネルに立つ人、ボードを持つ人、景品をお渡しする人に分かれる。

4 地域生活支援拠点について

○家族支援

各事業所より家族支援について意見を伺う。

〈愛歩 興梶さん〉

愛歩協力会があったが役員をやりたがらないことやお金の管理等の理由で、愛歩保護者会として作り直している。親亡き後について話題になる。これまでに母のケアをすることで利用者の反応が変わったケースを見てきた。問題行動を起こす方がおり、母に報告していた。家で反省会をしており、本人は反省会で母親と関わって楽しいから、問題を起こすことが分かった。それからはできたことを報告するようにし、行けたこと自体をほめるようにしたら良い方向に動いて行った。自閉症の方の親御さんから「この子はりんごしか食べません。」に対し、「パンを置いておいたら？」と提案したら食べたため、泣いて報告された。自閉症だと「こうでないと」と考えが狭くなることもある。今は社会情勢が変わり関わる時間がないが、家族と一緒に実際に会って話ができるといい。家庭で過ごす時間が長いから家族のケアが大事と思っている。

〈レジデンス日進 脇本さん〉

施設や法人の運営状況、今後の展望を話してご家族に理解していただく場になっている。これまでに会内で揉めて来なくなった方もおり、会を無くしたい、無くしたくないご家族がいる。夜に緊急搬送することがあるが、障害特性で受けてくれる病院が限られると遠くなり、ご家族が夜だと送迎できないこともある。また、他害があるのに「うちの子は誰にも手をあげない」と言い、物を壊したりトイレを詰まらせたりもある。今の時代にあった考え方を知ってもらう機会を作れればと思っている。

〈ランズビー梅森台 滝川さん〉

両親を亡くし、兄弟が本人のお金を管理。第三者に管理をしてもらうよう勧めたが、「知らない人には任せられない。」と兄弟が管理を続けている。本人にお金が十分渡されず、ストレスで自傷行為をしてしまった。携帯電話も持たせてもらえず、何かあれば近くの公園の公衆電話からご家族に電話している。近い関係だからこそ、感情的になると電話にわざと出なかつたりすぐに切ってしまうこともあり、来週会議をする予定。家族との関係が難しい。管理者より助言するが、聞く耳を持ってもらえないため、頭を痛めている。

〈ジョブサポあさだ 小山さん〉

ご家族と電話でやりとりをしているが、困り事を話すと2時間かかることもあり、切るわけにもいかず聴いている。「うちの子が家か

ら出ないんです。どうしたら良いですか？」と質問されることもあるが、行きたくない気持ちを許すことが彼らのペースには必要であり、その後の選択をどうしたいのかを引き上げる必要性を伝えている。今どうしたらいい？等同じ様な悩みは多い。話し合える仲間や機会がないため、ご家族と支援者がどう思っているのか、双方の立場での考えをみんなで話し合うことが家族支援として大切と思う。

〈あんじゅの森 神谷さん〉

ヘルパーとして訪問すると、お子さんの教育方針等の悩みを相談されることがあるが、ごはんを作りながら、お子さんがギャーギャー騒ぐ中で聴いているのでちゃんとした受け答えが難しい。落ち着いて聞ける環境があると良い。また、夫婦で拒絶しあっていることもある。妻の支援で入り、夫の話も聞こうと思うが、「あの人のことは放っておいて。そのことに触れないで。」と拒絶されると、なかなか入り込んでいけない。できれば家族全体を見ていきたいが、密室の状況だと雰囲気が悪くなることもある。ほんわかした雰囲気話していきたい。

〈瀬戸保健所 久保本さん〉

以前は家族教室をしていたが、コロナより辞めてしまった事業がほとんど。他の家族はどうしているのか聞きたいという声は聴くため、そのような機能は大事と思うが、活動されていところは高齢化で、後継がないと存続が難しいと聞いている。

〈愛歩 興栢さん〉

親と本人を離れた方が早い人もいる。お互いがこだわっていると関係がうまくいかないこともあるが、離れているとお互いが落ち着き、次会った時に穏やかな気持ちで話を始めることができる。ご家族はなかなか客観視できないが、支援者は客観視のプロなので、うまくことお伝えできたら良いと思う。擁護者の力が弱まってきているとも感じており、育成会の人数も減っている。

〈じゃんぐるじむ 竹内さん〉

育成会の中でみても昔の親と今の親で考え方が違う。全体的に保護者会がない。昔は保護者会がなければ育児ができないという状況だった。今は個人の能力が問われる時代。保護者同士で話せる場がないと保護者も支援者も困るのではないかと思う。働く保護者が多く、昔と違って集まりにくいのが、定期的であれば参加しやすいと思う。保護者のみだと方向性がゆがみ、話がまとまらないこともあるため、ファシリテーターがいると良い。育成会をもう少し活用できると良い。育成会は市の補助団体であるが、公に認知されていない。

名古屋市や大阪は育成会が法人化されており、市内ではすくすく園が就学相談をしているが、瀬戸市では育成会がしている。教育委員も学校の先生もみんなが参加し、親御さんの相談を聴いてアドバイスしながら進路を決めている。市内で育成会を周知できると良い。身障会も解散されており、育成会を知らない方がいるかもしれない。

〈ジョブサポあさだ 小山さん〉

一度、何でもシンポジウムを開催し、市の行政説明できる方に、事業所やご家族からなんでも質問ができるようにし、一年に一回でも市へ伝達するような環境を整えるのが良いのではないかと。利用者の気持ち、ご家族の気持ちを話せる場があれば、市に足りないものが見えてくると思う。

〈地域福祉課 櫻木さん〉

上記意見を1月自立支援協議会に入れ、その上で何をしていけるかを考えていく。来月以降、普段の支援の中で話したいことあれば出していただけると良い。

5 その他（地域福祉課 藤田さん）

○にも包括会議の報告

令和6年度尾張東部圏域「精神障害にも対応した地域包括システム」実務者会議に参加した。

参加者：行政、病院、アドバイザー、ゆったり工房、障害者相談支援センター

- ① 瀬戸保健所管内における『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』構築推進に向けた取組の状況について。
- ② 地域包括ケアチームの取組について。
- ③ ピアサポーターの役割と当事者として支援機関に求めること。
- ④ 今後の在り方について。

ゆったり工房の岩田さんがピアサポーターの活動を報告。病院から地域へ行くためにピアサポーターを上手に活用できると丁寧な寄り添いができるのではないかと。今後は地域移行に向けて議論していき、来年度あたり部会を立ち上げる予定。

以上

今回確認事項

- ① 前回の振り返り
- ② 各部会の報告について

	③	にも包括冊子の周知について
	④	地域生活支援拠点について
	⑤	その他
次回検討課題	①	にも包括冊子の周知について
	②	地域生活支援拠点について
次回開催日時	令和6年11月26日（火） 午後1時30分	
次回会場	障害者福祉センター 大会議室	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第7回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年10月22日（火）13時30分～15時10分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行	
② 興梠 精視	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍	
⑩ 福田 有輝	

（市職員）

① 岩城 佳寿	② 大橋 志乃 （欠）
---------	-------------

（事務局）

① 藤田 綾子	② 櫻木 順子
③ 小倉 懸自 （欠）	④ 宇佐美 香津美

⑤ 日岡 由季枝	⑥ 野々山 勝己
⑦ 西岡 きくの	⑧ 森田 敏湖

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第 8 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 6 年 11 月 26 日（火）13 時 30 分 ～15 時 00 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 5 名	市職員 2 名	事務局 8 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り（ 名：別添名簿のとおり） ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 各部会の報告について		
	3 にも包括冊子の周知について		
	4 地域生活支援拠点について		
	5 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・ 各部会の報告について ・ にも包括冊子の周知方法について ・ 地域生活支援拠点について		
	2 各部会の報告について（事務局） 別紙のとおり		
	3 にも包括冊子の周知について ○市民まつりでの冊子配布 配布数 665 冊配布。「知っている」と答えた人は 75 人。		

子どもの中にはコドモンで知っていたという方がいたが、ほとんどの方は知らなかった。

〈参加者より感想〉

・ジョブサポあさだ 小山さん

アプローチがスムーズにできた。景品をもっと用意できていたら良かった。同じ人に再度声かけをしてしまうことあったため、冊子を入れた袋を濃い色に変えたり、ウォークラリーに参加して順に回れるようにできたら良かった。

・ハーモニー 福岡さん

声をかけたら受け取ってくれる方が多かった。長久手市の方からは「こういうのがあるんですね。」と言ってもらえた。何をしているブースかな、と止まってくれる方も多かったので声かけしやすかった。隣ブースの社協では子ども向けの景品を配っていた。その関係で立ち寄ってくれた部分もあったため、子ども向けの景品があると良いと思った。

・ランズビー梅森台 滝川さん

同じ方に二度三度声をかけてしまった。受け取った目印があると良かった。午前は景品が充実していたが、午後は冊子のみになったため、景品が充実していると良かった。

・ゆったり工房 磯村さん

「シールを貼りたい」と言ってくれる子どもがいて良かった。冊子を知らない方に周知できて良かったが、今後は本当に欲しい方に届けられると良いと思った。

・地域福祉係 福田さん

質問に対し、知ってる・知らない、で回答するので、声かけしやすかったと思う。

・愛歩 興梶さん

シールが小さくて落としている方が多くいた。大きいシールだと良かった。

・地域福祉課 藤田さん

去年、違うブースにいたが、その時も同じ方に渡したことがあったため、気にしなくていいと思う。1割強きたら万々歳と思うため、この数値は反応が見えて良かったと思う。にも冊子が本当に欲しい人に届けられ、流れを伝えられるところまでできると良い。

○今後の予定

冊子については、すばる記載の部分や医療機関の更新の関係で中身を変えないといけない。にも包括をどう広めていくか。

- ・ケアマネジメント部会としては6月に支援者向け、11月に市民向けに啓発ができ、一定の成果をあげている。1月の自立支援協議会本会議で今年度の取り組み成果を報告する予定。今後の取り組みについて、保健所も含め、情報収集しながら活動を探っても良いし、自立支援協議会で出た意見について協議しても良い。
 - ・冊子の修正について、医療機関のページは二年置きに作り直したら良いと思っている。市民まつりではすばるが載っていない300冊を配布したが、足りなかった分はすばるが載っているものを配布した。情報を補足しながら配布できると良い。次の周知方法として勉強会で冊子を配布したり、家族向けに会を開催しても良い。
 - ・冊子の在庫は切欠きなしで、すばるが載っているものであれば、1500冊くらいある。支援者から直接説明できる状況であれば配布できるため、置いておくよりは良いと思う。
 - ・冊子を事業所におきたい。家族会をして家族に周知したい。
 - ・医療機関や図書館には置いている。ケアマネジメント部会内で部会員さんに各事業所に置く用に冊子をお渡ししても良い。
 - ・市のホームページに冊子のPDFが載っているが、すばるが載っているため、PDFの編集も必要。定期的に市のホームページに載っていることを周知することが必要。
 - ・コドモンで情報を流すのにルールが厳しくなっていており、市や学校からのお知らせや子ども向けに作った物でないと流せないようになってきた。例えば、行き渋りが出やすい時期を狙って「学校に来れるかな？」と問いに併せて周知するよう仕組みないとコドモンに流せない。親向けで流そうとするとPTAになる。
- 今後については、1～3月で来年度について考える。

4 地域生活支援拠点について

家族支援について、各専門部会ではどのように考えているか、意見を知りたい。家族支援について話は出ているのか。

- ・就労部会では親の力が弱くなっており、親は障害を伝える役割と思っている。挨拶を教えるなど家族の役割が分かっていない。子ども部会には10月半ばに就労部会の報告を伝えているが、後期は進学先について協議することになっている。放課後等デイサービスの事業者が多いため、あまり困っていないのかもしれない。
- ・昔、母子や療育の担当をしていた。子育て真っ只中のママや仕事で忙しいと、目の前のことで一生懸命だった。なぜ受診が必要で

療育が必要なのか、整理をし、先を考える手伝いが必要だと思った。子どもが小さく、ある程度枠にはめられる内に伴走者は先を見据えて情報提供することが大切と思った。将来自立をして仕事をするためにも、まずは挨拶などの人らしいことができ、可愛がられる子に育てられると良い。市内で見通しを共有し、方向性を統一し、意思決定支援も併せて支援者と家族と一緒に本人を支えられると良い。各部会にもう一度投げかけていただくと良い。

- ・家族向けに会を開催しても忙しい親は来れない人は多いと思うが、定期的で開催されていれば来てくれる人はいるはず。先輩にあたる親による講演会を開催し、先の見通しができると良い。また、横の繋がりを意識できると良い。以前、さわらび園の卒業生に話してもらったことがあった。人が多くて話しにくいなら、小さい規模で話す機会を設けても良い。
- ・権利擁護部会で2月に行った勉強会で講師を務める林さんが別の研修で、子どもの意思決定支援について話をされていた。障害が重度で自閉傾向が強い子についてだったが、話された方が良い取組をされていた。ぜひ子どもの事業所にも受けてほしい。
- ・これまでにグループカウンセリングを行う中で、自答して乗り越えていく過程をみてきた。アンケートをとって家族支援の場が求められてるのかを確認してもいい。

→欠席者が多いため、次回確認。

5 その他（介護福祉課）

10/29（火）第2回自立支援協議会が開催。

- ① 尾張東部相談支援地域アドバイザー竹田さんより、(株)恵について情報提供あった。

海部及び尾張東部圏域の担当地区では日中サービス支援型のふわふわが5か所あり、「相談支援員集合会議」を開催してみえてきた課題は、誰も責任をもっていなかったために起こるべくして起こったということ。(株)恵の社員からは「ほったらかし」をよく聞かれた。世話人・生活支援員は自分のやり方でみている状況で、入居したら関わらないご家族も一定数いた。適切なマネジメントをしていない相談員もいたため、相談支援・事業所の質的向上が必要。

〈委員より意見〉

日進独自の研修をし、横の繋がりができると、自身で「うちの事業所は大丈夫か」と確認するきっかけになると思う。

- ② 日中サービス支援型共同生活援助の評価等について

日中サービス支援型共同生活援助の評価シートについて委員より追加の意見があった。「6. 地域に開かれた運営」内に、「地域連携推

	<p>進会議の設置をし、定期的実施したか」を追加し、これで一旦完成とする。実際にシートを使っていく中で改善していく。</p> <p>③ 平澤先生より、ケアマネジメント部会で考えてほしいという意見をいただいた。</p> <p>(1) 不適切支援を減らすために研修が必要であるが、県単位の研修は人も時間もないため参加率が低い。日進独自の階層別研修を行うことができるよう、研修体制を検討していく。</p> <p>(2) 今、グループホームが何に困っているのかを共有するだけで次に進めることがある。以前ケアマネジメント部会で職員満足度調査を行った経緯から、日進近隣のグループホームにアンケート調査をしてほしい。</p> <p>(3) にも包括の推進にあたり、精神障害の方を支援するには医療と福祉の両輪の支援が必要。身近なところでも医療と連携できるように検討してほしい。</p> <p>・介護福祉課としては、できる範囲で対応できればと思っている。 ・興柵さんが平澤先生にご意見を伝えている。 虐待研修よりも、意思決定支援が必要なのではないか。愛知県知的障害者福祉協会でも研修はしていると思う。アンケートを行うには質問内容を検討することが大変。医療連携をするにも、児童精神科が少なく、知的障害・自閉症の分野が少ないため、受診されている方も少ない。にも包括を構築するにあたり、地域生活支援拠点の機能強化を進めなければならないと思っている。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>今回確認事項</p>	<p>① 前回の振り返り</p> <p>② 各部会の報告について</p> <p>③ にも包括冊子の周知について</p> <p>④ 地域生活支援拠点について</p> <p>⑤ その他</p>
<p>次回検討課題</p>	<p>① にも包括冊子の周知について</p> <p>② 地域生活支援拠点について</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和6年12月24日(火) 午後1時30分</p>

次回会場	障害者福祉センター 大会議室
------	----------------

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第8回	ケアマネジメント部会
日 時	令和6年11月26日（火）13時30分～15時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行 (欠)	
② 興梠 精視	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里 (欠)	
⑥ 竹内 由美子 (欠)	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘 (欠)	
⑨ 久保本 藍 (欠)	
⑩ 福田 有輝	

(市職員)

① 岩城 佳寿	② 大橋 志乃
---------	---------

(事務局)

① 藤田 綾子	② 櫻木 順子
③ 小倉 懸自	④ 宇佐美 香津美

⑤ 日岡 由季枝	⑥ 野々山 勝己
⑦ 西岡 きくの	⑧ 森田 敏湖

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第 10 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 7 年 2 月 25 日（火）13 時 30 分 ～15 時 00 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8 名	市職員 2 名	事務局 6 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り（ 名：別添名簿のとおり） ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 各部会の報告について		
	3 次年度の取り組みについて		
	4 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>1 前回の振り返り（センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にも包括冊子の周知方法について ・地域生活支援拠点について <p>2 各部会の報告について（センター） 別紙のとおり。</p> <p>3 次年度の取り組みについて （地域福祉課）：にも包括冊子については、来年度は医療機関のページを見直したい。各事業所の困り事について意見交換をした際にあがった共通テーマ（家族支援）についても話し合えると良い。ケアマネ部会は事例から地域の課題を見つけて検討していく部会のため、年間通して一つの</p>		

ことを話す必要はなく、部会として取り組みたいことや困り事について話す機会があっても良いと思っている。2月～3月の意見交換を踏まえて検討していきたいため、意見があれば伺いたい。ちなみに、にも包括については1月の自立支援協議会で取り組みを報告しており、瀬戸保健所管内の会議でも報告予定となっている。

(部会員)：事前に話すテーマが分からないと、当日の初見でベストの答えは出ないと思うため、事前にテーマを伝えていただき、当日を迎えられると良いのではないかと。会議で話を詰めたい。

(センター)：今後は、打合わせ後に事務局が部会員さんに協議内容をメールでお知らせする。

(部会員)：部会の回数が減ると聞いたが、いつ決定するのか。回数が分からないと検討事項の見通しが立てられないと思う。部会員は3年任期で参加している。

(センター)：協議すべき内容によって回数が決まることになると思うが、何回にしていくかは、市と協議中で回答を待っている。回答を受け次第、部会員さんにお知らせをする。

(地域福祉課)：全ての事を1年で解決は難しいが、1年単位でおおよその計画の見通しは立てたい。例年1回目に部会員さんに何をするか聞き、月1回開催してきた。3月までに来年度のテーマを何にするか決め、4月からスタートできると良い。今年度話し合った内容を膨らませる話ができると良い。他部会も家族支援で何ができるかを考え始めている。

(センター)：今年度卒業の子の行先がなく、ポレポレさんが週1日の半日のみ受け入れてくださることになったが、本人はすくすく園に通い、放課後等デイサービスを使い、ずっと支援を受けてきた方だった。母の認識や障害受容の甘さから徹底した支援ができず、強度行動障害でどこも受け入れてもらえなかった。行動援護を使う予定だが事業所が決まっていない。この現実について、ようやく子ども部会が認識したところ。本会議で出るご意見をどこで受けるかも課題。全部会の部会長と副部会長が一旦集まり、市の課題をどの専門部会で検討するかを話し合い、それから部会が動き出す仕組みができれば、地域づくりが進むのではないかと。合同の部会が部会の活動について意見を求める場になれば、良い方向に向かうのではないかと。

(部会員)：他部会からオブザーバーとして参加し合うシステムがあっても良いと思う。回数よりも、必要な流れや会議の

本質に個々が関心をもち、事前の情報をもとに協議できるシステムにすれば、偏りを減らしていけると思う。

(部会員)：自立支援協議会に専門部会員がいないことがすれ違う原因になっているのではないか。また、自立支援協議会で出た意見を参加した専門部会員が吸収できれば、課題について循環ができるのではないか。今は年1回の部会の報告のみになっている。ケアマネ部会は他部会を統括する役割もあり、他部会の活性化を促進しながら活動していけると良い。

(地域福祉課)：自立支援協議会の第3回があった。会長の意向で、にも包括や地域生活支援拠点等をテーマとし、グループワークで障害者自立支援の課題について意見交換をした。「医療的ケア児は今までにないカテゴリーであり、いずれ大人になるため、サービスを含めた支援体制を考えていかないといけない。」「家族会・保護者同士の繋がりが難しく、欲しい情報が欲しい時に無い。家族・本人側の課題について、いかに情報を共有していくか。」という意見が出ていた。市が作成した認知症のケアパスには認知症発症の頃からサービスや地域との繋がりの提案があり、介護度が重くなっていくと、サービスや家族向けの情報が見開き1ページでまとめられており、市では相談に来たタイミングで渡している。子ども部会のチャートで情報を網羅できるものができれば、園や学校に配布したり、コドモンで情報を流すことができる。どういう媒体や見せ方をすると保護者に効果的に伝わるのかは不明だが、情報をどうやって伝えるかは部会で話せると良いのではないか。

(部会員)：子どもから大人まで対応したチャートとなると壮大にはなるが、生まれた時から大人になるまで伴走型でないといけない。市全体で取り組むことなのではないか。部会毎で区切ってしまうと繋がらないのではないかと思う。

(センター)：今はそれぞれの部会が違う方向を向いているが、一つのことを部会で分担して取り組んでも良い。

(地域福祉課)：「このタイミングで関わったからこうなれた。」という成功事例を共有することも良いかもしれない。

(部会員)：年齢、進路等、状況は様々。上手くいったかは最後まで分からない。つまずいたところで先生がもう一歩踏み込んだ支援をしないとイケない。家族もチームの一員という認識を子どもが小さいうちから持ってもらえないと、事業所が疲弊する。

(部会員)：一步踏み込んだ支援とは？

(部会員)：保護者は「障害があるから仕方ないでしょ。」と思っている部分がある。そうかもしれないが、障害を受け止めていけないといけない。本人は理解したい気持ちや理解できてもそれを伝えられなかった時等に他害や自傷に繋がっており、成長し大きくなるほどエネルギーが大きくなる。事業所は家族が傷つかないように、負担が重くならないように言葉を選んで伝えるため、親は上澄みだけを汲み取り、そうこうしている内に子どもは大人になって手が付けられなくなってしまう。預けることで親は普通の生活ができるが、きちんと向き合える場が必要と思う。事業所内にアメリカやイギリスのメンバーがおり、夏休み等に帰国している。海外での取り組みを聞くと、チームができており、家・学校・事業所での対応の仕方を話し合っていて取り組んでいる。

4 その他（センター）

日進市障害者福祉センターの施設利用についてのアンケートの記入について案内。

以上

今回確認事項	①	前回の振り返り
	②	各部会の報告について
	③	次年度の取り組みについて
	④	その他
次回検討課題	①	次年度の取り組みについて
次回開催日時	令和7年3月25日（火） 午後1時30分	
次回会場	障害者福祉センター 大会議室	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第 10 回	ケアマネジメント部会
日 時	令和 7 年 2 月 25 日（火）13 時 30 分～15 時 00 分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行	
② 興梠 精視 (欠)	
③ 磯村 有美 (欠)	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍	
⑩ 福田 有輝	

(市職員)

① 岩城 佳寿	② 大橋 志乃
---------	---------

(事務局)

① 藤田 綾子 (欠)	② 櫻木 順子
③ 宇佐美 香津美	④ 日岡 由季枝

⑤ 西岡 きくの	⑥ 野々山 勝己
⑦ 森田 敏湖	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	森田 敏湖	市確認欄	
専門部会名	第 11 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 7 年 3 月 25 日（火）13 時 30 分 ～15 時 00 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 6 名	市職員 2 名	事務局 3 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り（ 名：別添名簿のとおり） ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 各部会の報告について		
	3 日進市における重層的支援体制整備事業について		
	4 次年度の取り組みについて		
	5 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り（センター） ・次年度の取り組みについて 2 各部会の報告について（センター） 別紙のとおり。 3 日進市における重層的支援体制整備事業について（地域福祉課） 別紙のとおり。質疑応答。		

Q：市役所の中でも、課での横の連携が弱いという話しが1年前にあった。今はどうか。

A：各課での垣根について、少しずつ変わってきた印象がある。それぞれの課の窓口で受けた相談について、くらしサポート窓口を引き継いでいる。窓口で最初に聞いた人の意識が高まることで、他の機関に繋がると感じている。

Q：困ったら、くらしサポート窓口でいいのか。

A：生活困窮は、制度の狭間の世帯を支援するという、重層的支援体制整備事業と同じ発想。市役所でも困ったら、くらしサポート窓口で相談しているが、それぞれの機関でアセスメントや課題整理の力を付けられるといいと思う。

○令和7年度の部会の取り組みについて（センター）
別紙のとおり。質疑応答。

Q：5月は何日に開催か。

A：第4火曜 13：30～15：00 は基本で変わらない。

4 次年度の取り組みについて

ケアマネ部会で検討する家族支援の取り組みや、事業所での家族支援について、部会員より意見をいただく。

- ・働く保護者が多いため、生活介護が終わってからも安心して過ごせる場があるといい。保護者が家にヘルパーを入れるのが嫌な場合は、本人が一人で過ごしている場合もある。事業所の延長も考えるが、人材不足で難しい。地域の資源が増え、整うと良い。また、個別支援計画について、保護者が添削し、保護者の理解を得られないと、計画に印を押してもらえず、提出期日に間に合わないこともある。保護者の対応が難しい。事業所の方向性を理解して協力してくれる保護者と丸投げされる保護者がいる。
- ・ケアマネ部会で検討できることは、座談会で交流の場をつくるとともに、新たなニーズを見つけること。事業所での家族支援では、保護者の話を聴くことで時間をとられ、本来の直接業務がないがしろになる点で困っている。聞くことが業務として認められ、加算があればいいと思う。
- ・ヘルパーを家に入れるのが嫌な家庭については、ヘルパーと外に出かけられると改善に繋がると思うが、人材が必要。高齢分野ではサポーター養成講座があるため、障害分野でもサポーター養成講座を日進市で開催されるといい。買い物代行であれば、ヘルパー以外でも対応できる。事業所としては、LINEを活用し、直接入るヘルパーと情報共有することで、すぐに対応できるように

- している。利用者の中にはお子さんや高齢者の悩みもあるため、基本的に傾聴し、情報提供や繋ぎ先を紹介している。
- ・休みの日にご家族との面談を入れることがある。ご家族が徐々に高齢になり、色々な悩み事が発生している。昔と今では制度も異なるため、正しい情報をご家族に伝えられる場面が増えるとい
 - い。
 - ・グループホーム内では、身内が少ない方が多いため、家族関係についての困り事がない。
 - ・ご家族の困り事と、ご家族と事業所との困り事など、実態把握をして整理できるといい。講座を開催することでご家族に情報を知ってもらうことや、ニーズを把握した上で取り組む内容に繋げていきたい。ご家族が集える場が必要と思うが、日進市は家族会(精神)が解散しており、家族会を開いても参加者は少ないという現状はある。
 - ・今の時代はスマホでも情報はとれる。直接会わなくてもLINE等のツールはある。昔ながらの家族会の在り方もいいが、新しい交流方法もあると思う。また、保護者の方は事業所に話したいのか、誰でも良いのかを整理できるといい。

5 その他

- ・「65歳問題」を解消するための「高額障害福祉サービス等給付費」制度※について、ケアマネージャーが制度を知らないことがあった。利用料について、関係機関と連携がとれていないと感じた。
- ・制度について、申請がしているのか、自動的に該当するのかは、引継ぎ先でのことになるため、センターとしては一般的な話として、基本的に1割負担になると説明している。手続き等の流れについて、介護福祉課に確認が必要と思う。

※高額障害福祉サービス等給付費…65歳に至るまでに相当の長期間にわたり、障害福祉サービスを利用して一定の高齢障害者に対し、障害福祉制度により利用者負担を軽減(償還)する仕組み。

以上

今回確認事項	①	前回の振り返り
	②	各部会の報告について
	③	日進市における重層的支援体制整備事業について

	④ 次年度の取り組みについて
	⑤ その他
次回検討課題	① 次年度の取り組みについて
次回開催日時	令和7年3月25日（火） 午後1時30分
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第 11 回	ケアマネジメント部会
日 時	令和 7 年 3 月 25 日（火）13 時 30 分～15 時 00 分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 脇本 浩行	
② 興梠 精視 (欠)	
③ 磯村 有美	
④ 福岡 玲奈	
⑤ 神谷 真里	
⑥ 竹内 由美子 (欠)	
⑦ 滝川 智恵子	
⑧ 小山 貴弘	
⑨ 久保本 藍 (欠)	
⑩ 福田 有輝 (欠)	

(市職員)

① 野村 圭一	② 岩城 佳寿
---------	---------

(事務局)

① 藤田 綾子 (欠)	② 櫻木 順子 (欠)
③ 宇佐美 香津美 (欠)	④ 日岡 由季枝 (欠)

⑤ 西岡 きくの	⑥ 野々山 勝己
⑦ 森田 敏湖	